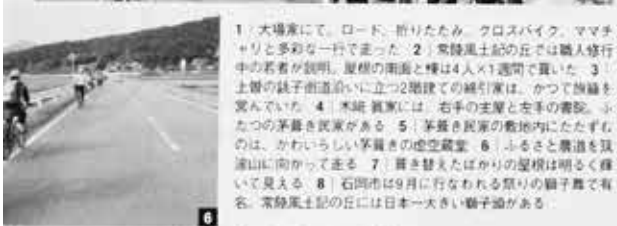


筑波山麓・里の風景をのんびり訪ねるワンデーライド 「やさと茅葺きサイクリング」

首都圏からも近い茅葺きの里、茨城県石岡市やさと地区で、去る11月、茅葺き古民家をめぐるツアーが催された。「自転車No.29」号の巻頭ルポでも紹介した同エリアは、ライター新田のマイタウン。最高の散歩ライドコースを案内します。

文・写真→新田健夫



1 | 大場家にて。ロード、折りたため、クロスバイク、ママチャリと多彩な一行でまわった。2 | 常陸風土記の丘では職人修行中の若者が説明。屋根の断面と棟は4人×1週間を量いた。3 | 土間の躰子街道沿いに立つ2階建ての綿引家は、かつて旗本を宿っていた。4 | 木崎 眞家には、右手の主屋と左手の書院。ふたつの茅葺き民家がある。5 | 茅葺き民家の敷地内にたたずむのは、かわいらしい茅葺きの虚空蔵堂。6 | やさと農道を筑波山に向かって走る。7 | 葺き替えたばかりの屋根は明るく輝いて見える。8 | 石岡市は9月に行なわれる県庁の獅子舞で有名。常陸風土記の丘には日本一大きい獅子頭がある。

※コースは、ブログ「やさと茅葺き屋根保存会がより「コース試走しました」を参照ください。http://yasatokiyabuki.cocolog.nifty.com/blog/ ※茅葺き民家の敷地内での見学には、家主の許可が必要です。保存会では年に数回の見学会を行っています。

関

東の茅葺き王国といわれる茨城県。なかでも筑波山の東麓、石岡市やさと地区には、母屋や長屋門など茅葺きの建物が70棟ほど残る。点在する民家をめぐるのに、自転車はどぴつたりの足はない。

地域に残る茅葺き屋根の材料となるススキを協力して集めるため、やさと茅葺き屋根保存会ができたのは9年前。以来毎年12月には時を越えた向こう側、つくば市にある高エネルギー加速器研究機構の敷地でススキを刈っている。その保存会の事務局を担当することに

なった私は、以前から考えていた、やさとに点在する茅葺き民家を自転車でもめぐるサイクリングを呼びかけてみた。

雨で予定を順延して11月24日。スタートはJR常磐線高浜駅。鉄道の駅のないやさとだが、自転車なら駅近くから常陸川サイクリング道で車道を通らずに行ける。まずは、やさと地区に入る手前、常陸風土記の丘へ。ここには縄文時代の竪穴式住居から江戸時代の民家まで、20数種の昔の建物が復元されている。これらほとんどは茅葺き屋根をメンテナンスするため

若手の職員2人が80歳の名人に弟子入りし、茅葺き職人修行中。葺き替えたばかりの屋根の片付けをして、あたりとりに声をかけ、仕事の様子を話してもらった。

鬼越のちよとした坂を越えると、やさとに入る。総勢20人、筑波山を正面に見る一本道を一直線に走る。やさとを南北に抜ける山麓道路のフルツライラインはサイクリストに人気のコース。道沿いにあるフラワーパークの駐車場入り口に、最新式のトイレができたので寄る。トイレは、つくばに抜ける朝日トンネルの開通に合わせ

て整備された。が、フルツライラインの交通量は以前と比べて5〜10倍増なので、今回はちよこつとかすめて、あとは集落をつなぐ里道を選ぶ。

前号で中山絵莉香さんと訪ねた上青柳地区の木崎家は母屋と書院、2棟の茅葺き屋根を持ち、門や庭も見事に手入れされた。やさとを代表する民家。当主の木崎眞さんが茅葺き屋根保存会の会長として歓迎のごあいさつ。その後、もと線路だった上管地区の綿引家など茅葺き民家をつなぎつつ、お昼には冬のやさと名物、しゃも鍋をい

ただ、午後は幕末の勤王の志士で歌人の佐久良東雄の生家から佐久の大塚家へとまわる。茅葺き屋根を見学していると、秋の日は早くも傾きはじめた。

最後は、広々とした丘を越えていく道をスピードアップ。予定していた愛宕山へのヒルクライムは次回にまわして、JR常磐線若間駅にゴール。朝9時すぎから午後4時まで丸一日かけて走った距離は50km。立ち寄る場所ごとゆっくりと見て聞いて話して、やさとの里の風景に似つかわしい、のどかなサイクリングだった。

